道元　ドウゲン　1200～1253

鎌倉時代の僧。曹洞宗の開祖。俗性源氏、別称、希玄、仏法房。
父は内大臣久我通親（通親の子の通具との説あり）、母は摂政藤原基房の娘伊子で、京都に生まれた。３歳で父を、８歳で母を失い、世の無常を感じて（母の遺言によるとの説あり）13 歳で出家し、翌年天台座主公円について得度した。18 歳の時、栄西の開いた建仁寺の明全を訪れて禅宗に帰した。24 歳で明全と共に入宋して、諸山遍歴ののち天童山景徳寺如浄のもとで身心脱落(身も心も抜け落ちる悟りの体験)し、ひたすら坐禅をする只管打坐(しかんたざ)の禅を受け継いだ。
28 歳の時に帰国した道元は一時建仁寺に入り、如浄より伝えられた正法をひろめるために『普勧坐禅儀』を著した。比叡山の圧迫により深草安養院にうつり、興聖寺を開いた。寛元元(1243)年、波多野義重の招請により越前に行き、翌年大仏寺を開きのちに永平寺と改めた。宝治元(1247)年北条時頼に招かれて鎌倉に行ったが、翌年永平寺に帰った。建長５(1253)年 54 歳で後事を懐弉(えじょう)に譲り、京都にて入滅。

Great Books 49　正法眼蔵(しょうぼうげんぞう)

道元の主著で、寛喜３(1231)年 32 歳の時から建長５(1253)年 54 歳までの 23 年間の説示を編輯したものであり、真字(漢字)と仮字(和文又は和漢混交文)の２種がある。
説示ごとに１巻となし、「現成公案」「仏性」「大悟」などそれぞれの巻に「正法眼蔵」の名を冠しており、多くの巻には説示の年月や場所が記されている。
さて、「正法眼蔵」という語は仏法の真髄のことをいう。道元の著した『正法眼蔵』は正法の仏法、すなわち釈尊から菩提達磨を経て如浄より伝えられた正法であり、釈尊の悟りに直結する坐禅による仏法の本義を示している。独自に創造された文体によって、涅槃妙心(悟りを成就した理想の境地)を解き尽くしている。
道元はこれらの巻を編輯し体系づけて『正法眼蔵』としたが、先に編輯した 75 巻本(「旧草」と称される)と、100 巻本の構想で新しく撰述し直した 12 巻本(「新草」)とがある。病のため、第 100 巻に想定した「八大人覚」が最後となった。伝写の間に異本が生じ、60 巻本、84 巻本、83 巻本、また永平寺に伝わる『秘密正法眼蔵』28 巻本、江戸時代に編集された 95 巻本などがある。「辨道話」は旧草では『正法眼蔵』の中に含まれていないが、もっとも早い 1231 年の成立で、序論的な位置を占めるものである。
この書については、曹洞宗開祖道元の書として仏教界だけでなく、和辻哲郎の「沙門道元」をきっかけとして哲学者の研究書も多い。また、現在の自己のほかにもう一つの、もっと深い自己が何であるかという根本問題を正面からとりあげており、『徒然草』や世阿弥能楽論など中世文学への影響が大きいことが指摘されている。現在では作家などから生を問う書としてのアプローチもある。
『正法眼蔵』の内容はかなり難しいので、その理解のために、道元に常に随侍していた懐弉が興聖寺を開いた頃の道元の教えや説法の様子を綴った『正法眼蔵随聞記』の併読も一助となる。

Key Phrase　仏道をならふといふは、自己をならふ也

仏道をならふといふは、自己をならふ也。自己をならふといふは、自己をわするるなり。自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるといふは、自己の身心および他己(たこ)の身心をして脱落せしむるなり。悟迹(ごしゃく)の休歇(きうけつ)なるあり、休歇なる悟迹を長々出(ちゃうちゃうしゅつ)ならしむ。

（現代語訳）
仏道をならう(修行する)というのは自己をならう(修行する)ことである。自己を修行するというのは、自己が(諸法ばかり、万法ばかりになって、)自己を忘れることである。そういう自己を忘れるということは、万法から(自己が)実証されることである。万法から実証されるということは、自己の身心および他己(わたしの中にある他人)の身心が自分のものでないことを徹底させるのである。(それが悟りであるが、その)悟りの

痕跡(あとかた)は、まったく、休歇(やすみきつて)いるものであり、休歇(やすみきつて)いる悟りの痕跡(あとかた)を、永久にそのままにさせるのである。
＜水野弥穂子(訳注)『道元禅師全集　第１巻　正法眼蔵１　第１現成公案(げんじやうこうあん)』　春秋社＞

◆ *Great Books 文献案内*

- 道元禅師全集　第１巻　正法眼蔵 1／水野弥穂子(訳注) 鏡島元隆(監修)
  春秋社　２００２年刊　３１２ｐ　<188.8／488／1>　資料番号 21553599
  ＊原文対照現代語訳。辨道話と第１現成公案から第 10 大悟を所収。
- 正法眼蔵１～４(岩波文庫ワイド版)／水野弥穂子(校注)
  岩波書店　１９９３年刊　<188.84CC／17／1～4>
- 道元　正法眼蔵　上・下(原典日本仏教の思想)／道元(著)　寺田透，水野弥穂子(校訂)
  岩波書店　１９９０～１９９１年刊　<182.1Z／4／7～8>　資料番号 20358305，20358339
- 全訳正法眼蔵　巻１～巻４／中村宗一(訳)
  誠信書房　１９７１～１９７２年刊　<188.8／180／1～4>
  ＊原文、現代語訳併記。大久保道舟編『道元禅師全集』を底本とする。
- 道元禅師全集　上巻／大久保道舟(編)
  筑摩書房　１９６９年刊　８５０ｐ　<188.8／133／1>　常置　資料番号 10289676

◆ *理解を深めるために　　参考文献案内*

- 道元の考えたこと(講談社学術文庫)／田上太秀(著)
  講談社　２００１年刊　２８２ｐ　<188.82／40>　資料番号 21393947
- 道元断章／中野孝次(著)
  岩波書店　２０００年刊　２１９ｐ　<188.84JJ／21>　資料番号 21277223
- 日本精神史研究(岩波文庫)／和辻哲郎(著)
  岩波書店　１９９２年刊　４０１ｐ　<ｲ121／ﾜ>　資料番号 20530564
  ＊「一宗の道元から人類の道元へ」、道元を哲学的に探求し、その後の研究に影響を与えた「沙門道元」を所収。
- 正法眼蔵随聞記(岩波文庫ワイド版)／道元(著) 懐奘(編) 和辻哲郎(校訂)
  岩波書店　１９９１年刊　１７０ｐ　<188.84Z／2>　資料番号 20279097
- 道元禅師全集　第１～７巻／鈴木格禅(ほか編)，河村孝道(ほか校注)
  春秋社　１９８８～１９９１年刊　<188.8／384／1～7>
- 講座道元１～７／鏡島元隆，玉城康四郎(編)
  春秋社　１９７９～１９８１年刊　<188.8／233／1～7>
- 道元辞典／菅沼晃(編)
  東京堂出版　１９７７年刊　２７１ｐ<188.8／219>常置(相談室)　資料番号 10290898
- 正法眼蔵用語辞典／中村宗一(著)
  誠信書房　１９７５年刊　６０９ｐ　<188.8／201>常置(相談室)　資料番号 10290641
  ＊『正法眼蔵』に記載された難解と思われる主な語、章句、仏、菩薩、祖師、人名、地名を収録し、それぞれの解釈を付したもの。原文は大久保道舟編『道元禅師全集』を底本とする。
- 日本の名著７　道元／玉城康四郎(編)
  中央公論社　１９７４年刊　４７６ｐ　<081.6／34／7>　資料番号 12785036
- 日本古典文学大系 81　正法眼蔵・正法眼蔵随聞記／西尾実(ほか校注)
  岩波書店　１９６５年刊　４９１ｐ　<918／9／81>　資料番号 12038899